

*

今、私は退職して一歳の娘と過ごす毎日です。初めて自分でページをめくった本、繰り返し楽しんでいる本等、母として忘れられない本がでてきました。最近、何冊もある絵本の中から娘が

「はい」と持ってくる本が数冊決まってきました。これからの娘との生活の中で、どんな忘れられない本がでてくるのか楽しみにしている今日この頃です。

(元公立幼稚園教諭)

犬丸りんと

香川県健康福祉総務課のホームページ

山本 政人

最近本を読まなくなりました。読むのは新聞、雑誌、漫画、そしてインターネットのホームページ

である。仕事柄、学会誌などはよく読む。というより目を通す。趣味あるいは娯楽として読むの

は、もつばら漫画とホームページである。図書紹介を依頼されて、「最近何か読んだかな」と困惑してしまった。

昔は小説をよく読んでいた。年をとるにつれ、歴史小説、推理小説、SFといった娯楽ものばかりになり、むずかしい本やいわゆる名作はほとんど読まなくなった。私は気に入ると同じ作家のものばかり集中して読むという偏った読み方をす。芥川龍之介、司馬遼太郎、松本清張などには、最近では京極夏彦である。

昔読んだものを紹介するのどうかと思い、最近読んだものからということになると、これしかないというのが、犬丸りんさんの作品である。

犬丸りんさんといえば、アニメ「おじゃる丸」であまりにも有名である。かどうかかわからないが、私がりんさんを知ったのも「おじゃる丸」の原作者としてである。どういう人なのかなと思っ

て、知人に聞いてみると、雑誌に漫画を連載していたとのこと、早速探

してみたが、見つからなかった。ところが、ある日、文庫本のコーナーを見てみると、置いてあるではないか。「かんとんに幸せになりたい」(幻

冬舎文庫)という本。何やら見覚えのあるタツチの表紙絵。めくってみると漫画がメインで、エッセイが挿入されている。

「なんだ漫画か」と思って読んでみると、意外に面白いので購入。読みやすいのですぐ読み終わりましたが、二度三度読み返してみると、読めば読むほど面白い。『かんとんに幸せになりたい』という題名通り、これは簡単に幸せになれる本である。



その後、知人からほかにも作品が出ていることを聞いて探してみた。

見つかったのは『偏愛』（読売新聞社）という短編小説集と『んまんま』（角川文庫）というエッセイ集。この人、漫画だけでなく、小説も書くし、エッセイも書くし、多才な人である。ユーモアというか、アイロニーが効いているところは、どことなく原田宗典さんと似ている。大きな違いは女性であること。りんさんのユーモアやアイロニーは男のそれと違い、厭味がなく、「まったり」している。「癒し」という言葉が当たるかどうかかわからないが、『かんたんに幸せになりたい』にしても小説にしても、読んでいて肩の力がが抜けるし、ものによっては笑いがこみ上げてきて、それをこらえるのに苦労する。

犬丸りんさんに興味をもって、インターネットで検索してみた。「おじやる丸」以外にはなかなか

が見つからない。しかし『偏愛』や『んまんま』を紹介しているホームページがあった。どんなページかと思ってみていると『かがわ健康福祉情報ネットワーク』というホームページ。香川県の健康福祉総務課が運営しているサイトである。

これがすばらしいホームページで、私もいろいろなホームページを見ているが、これだけのものはなかなかないと思う（しかもお役所のサイトである）。健康福祉関係の情報提供がメインで、子育てや介護保険の情報などが盛りだくさんだが、図書紹介や管理者の方の旅行記などもあって、読みごたえがある上に面白さもある。しかも毎日のように更新されていて、最新情報を見ることができる。管理者の方にホームページのことを紹介してもいいかどうか、おうかがいのメールを出したら、快くご承諾をいただいた。

というわけで、図書紹介ではないのだが、おす

すめのホームページである。因みにURLは
<http://www.hw.kagawa-swc.or.jp>である。トップ
ページにメニューがあり、そのなかの「健康福祉
あいらんど」を選択すると、またメニューが出て
くる。そのなかの「ぶくぶくぶつく」というボタ
ンから図書紹介のページへ入ることができる。そ
のほかにもたくさんページがあり、有益な情報や
面白い記事ばかりなので、インターネットをなさ
る方は一度訪ねてみてはいかがかと思う。

いうまでもないが、今や図書の形は紙ででき
本だけではない。ホームページというのは、活字
もあり、画像もあり、音も出てくる。それだけな
ら本と大きな違いはないが、作者に気軽にメール
を送ったり、返事をもらったりすることができ
る。こういう送り手と受け手のコミュニケーション
が容易に成立することが、ホームページのいい
ところである。本だと、作者に手紙を出すことは

普通しないし、出しても
返事がくることはまずな
い（くるのは同人誌くら
いである。それも最近
はメールでというのが普通
である）。

もとより本を否定する
つもりではない。しかし
本が売れない、読まれな
い事情は、個人的にはともよくわかる。だから
こそ、若い世代には「本を（本も、といった方が
素直である）読みましょう」とすすめなければな
らないと思う。

（学習院大学）

